



新農政に高い関心を示す参加者

3/3

女性目線で 新農政を活かせ 「女性部農政学習会」開催

女性部は、初の女性部農政学習会を本店の大会議室で行い、部員46人が参加しました。

農業施策が大きく変わる中で、女性部員が学びながら成長するために開催したもので、「新農政への参加」と題し、戸別所得補償制度、水田利活用自給力向上事業について、秋田県農政事務所の担当官の講演と質疑応答で理解を深めました。参加者は、「実際に家計に与える影響は？」など積極的な質疑応答がなされ関心の高さがうかがえ、これからも、女性が積極的に農政や農業経営に関心をもっていく重要性を確認しました。

3/12

新農政にも スケールメリットを活かそう 「集落営農組織等連絡協議会代表者会議」開催



組織間の情報交換を密に、地域農業の活性化を図る

集落営農組織・農事組合法人等の代表者会議を湯沢市で行い、24組織の代表、農政事務所・振興局・市町村の農政担当者等、約60人が参加しました。

会議では、戸別所得補償制度の概要や集落営農組織による水稲共済加入制度などについて研修を深め、農業政策の転換も視野に、組織経営のスケールメリットを充分に引き出させるサポート体制の確立に向け協議を行いました。

J Aこまちは、米の生産数量目標の減少、農業者の高齢化等が進む中で、地域に合った制度活用、集落営農組織等の大豆・小麦等の規模拡大、県の推進する戦略作物の導入拡大による複合経営の定着を推進していきます。

3/15
~19

「勉強、頑張るって」 「食」「環境」「農業」理解を 小学校へ補助教材を贈呈



西馬音内小学校での贈呈式
(左、佐藤さんと右、西馬音内支店長)

J Aこまちは、J Aバンク食農教育応援事業による小学生向け補助教材「農業とわたしたちのくらし」と「ジュニア農林水産白書」を管内の小学校23校に贈呈しました。

この事業は、子どもたちが「食」や「環境と農業」への理解を深めるきっかけとなるよう、平成20年度からJ Aバンクが全国の小学校を対象に行っています。J Aこまちは、平成22年度分を、1学期の授業から活用できる様にこの時期に配布しました。

西馬音内小学校では、児童を代表し佐藤くん（5年生）が笑顔で受け取ってくれました。

Hotな 芽生え



稲作連絡協議会は、特別栽培米部会の22年産米生産検討会を行い、部会員、JA担当者等60人が参加しました。検討会では、宮城県エコファーマー認定1号を受け、環境保全型農業に取り組み佐々木陽悦氏を講師に「有機農業等の公益的機能（地球温暖化、生物多様性）と『見える化』の取り組み」と題した基調講演を行いました。

佐々木さんは、有機農法や特別栽培米等に取り組む生産者は、「安全・安心」な食料供給者であり、環境保全や生物多様性、地球温暖化問題に果たす役割の重要性を国民に「見える化」する事で販売拡大、持続的農業経営につなげたいと話しました。



佐々木さんの基調講演、「見える化＝分かるようにすること」

3/18

消費者を意識した
生産・販売を
「特別栽培米生産検討会」開催



活発な情報交換、意見交換がなされました

JAこまちは、集落組合長会連絡協議会を開催し、19人の集落組合長、JA役員が参加しました。

はじめに、岩井川正雄会長（岩崎地区）が、「諸々の課題がある中で、地域のまとめ役として各地で頑張っていることと存じます」と日頃の集落組合長の尽力に敬意を表しあいさつしました。

会議では、①22年度の集落座談会の開催方法について②22年8月24日に任期満了を迎える総代改選について③米の戸別所得補償モデル事業等について協議し、農業情勢の大転換期の中で、JA組織の更なる連帯強化を図る役割を果たすことを確認しました。

3/19

JAと地域の
かけ橋を目指し
「集落組合長会連絡協議会」開催



「農政転換を活かす農業振興を」と題し東京大学大学院教授、食料・農業・農村政策審議員の鈴木宣弘氏が記念講演を行いました

3/27

新農政をフル活用し
地域農業振興を
「生産者大会」開催

JAこまちは、生産者大会を開催し、生産者、地元選出の国会議員、湯沢市長をはじめ管内3市町村の農政担当者等、約300人が参加しました。

22年度からの新たな農業政策等の動向を踏まえ、長期的視野に立った多様な担い手の育成確保に努め、地域特性のある農畜産物の生産販売力の強化を推進し、安定した農業を目指すことを目的に開催したもので、岩井川光雄組合長は、「2010年度から始まる新農政を最大限活用し、長期的視野に立った、安心して農業を営むことの出来る生産構造の実現を目指す」と参加者を前にあいさつしました。